

本 賞

日本ビーチボール協会

(廣田諄理事長=朝日町)

1984年、朝日町での協会発足を機に廣田氏を中心となって県内外への普及に努め、1992年に富山県を含む5都県で「日本ビーチボール協会」を発足させ、今年設立20周年を迎えた。

1995年から始まった主催のジャパンカップ選手権は今年で18回を数え、3月に富山市で17都府県320チームが集まり開かれた。富山県での開催は全国最多の4回。

ほかにも県協会と連携し、全国ビーチボール競技大会や60歳以上の選手が競う翡翠（ひすい）カップビーチボール全国大会を朝日町サンリーナで開催。毎年500～2000人近い参加者があり、地域の活性化にも大きく貢献している。

■沿革

- | | |
|--|---|
| 1977年(昭和52年)4月 朝日町の体育指導委員会議でビーチバレーボールを考案 | 1992年(平成4年)11月 日本ビーチボール協会設立(富山県など5都県加盟) |
| 1979年(昭和54年)6月 ビーチバレーボールのルールを制定 | 1994年(平成6年)7月 60歳以上対象の第1回翡翠カップ |
| 11月 第1回朝日町ビーチバレーボール大会開催 | ビーチボール全国大会開催(朝日町) |
| 1984年(昭和59年)8月 朝日町ビーチバレーボール協会設立 | 1995年(平成7年)3月 日本ビーチボール協会主催の第1回ジャパンカップ |
| 9月 第1回全国ビーチバレーボール親善交流会開催(朝日町) | ビーチボール選手権富山大会開催(小杉町) |
| 1986年(昭和61年)7月 富山県ビーチバレーボール協会設立(32市町村加盟) | 1997年(平成9年)5月 富山県ビーチボール協会が県体育協会に加盟 |
| 11月 第1回富山県ビーチバレーボール大会開催(高岡市) | 2005年(平成17年)12月 富山県ビーチボール協会設立20周年記念式典開催 |
| 1991年(平成3年)4月 名称変更ビーチバレーボールからビーチボールに変更 | 2012年(平成24年)3月 第18回ジャパンカップビーチボール選手権富山大会開催 |
| ※以後、大会名が〇〇ビーチボール(競技)大会となる。 | (富山市:県内では小杉町、砺波市、黒部市について4回目の開催) |
| 4月 富山県ビーチボール協会が県生涯スポーツ協議会に加盟 | 11月 日本ビーチボール協会設立20周年記念式典(東京) |

【平成24年度日本ビーチボール協会役員】
(富山県関係者等)

- | | |
|------------------------|-----------------|
| 名誉会長 鹿熊安正 (朝日町) | 副理事長 安田美和子(富山市) |
| 顧問 石井隆一 富山県知事 | 統括部長 林 和夫 (朝日町) |
| 顧問 魚津龍一 前朝日町長 | 審判部長 堀 正行 (高岡市) |
| 参与 脇四計夫 朝日町長 | 理 事 浦城邦博 (魚津市) |
| 会長 小野清子 (東京都) | 監 事 深松 實 (朝日町) |
| 理事長 廣田 諄 (富山県協会会長:朝日町) | 事務局長 西岡良則 (朝日町) |

ビーチボールの第18回ジャパンカップ選手権富山大会は24日、県総合体育センターなどで開幕した。17都府県の320チームが出場し、25日まで激しい攻防を繰り広げる。北日本新聞社共催。

320チーム競う 富山でJカップ

選手たちは点数が決まると輪になって喜び合っている。



白熱したラリーを繰り広げる選手—県総合体育センター

2年3月25日付北日本新聞

特別賞



柴山 友里子

ロンドンパラリンピック「ボッチャ」日本代表。

パラリンピックでは、1回戦でカナダ選手を5-0で下し16強入り。2回戦は英国選手に4-6で敗れ8強入りを逃したものの、団体7位入賞、個人11位だった。昨年の日本選手権では優勝、ワールドカップでは日本の団体準優勝に貢献した。

生後間もないころの病気で歩くことが難しく、薬の副作用で小学生のころには両手の自由も利かなくなった。転機は2000年。障害者スポーツ交流会でボッチャを体験した際、障害を抱えながらもプレーできることを知り、「体が不自由でも楽しく投げられる」と、2年後から本格的に競技を始めた。10メートルも狙えるコントロールの良さが持ち味。1972年12月生まれ、魚津年金事務所勤務。



柴山の活躍をたたえた来場者
|| 魚津市駅前新町

16強たたえる

地元で支援者ら拍手

ロンドン・パラリンピックのボッチャ競技に出場した柴山友里子(39)の地元・魚津市の飲食店で6日夜、家族や支援者約70人が集まり、大舞台での活躍をたたえた。ロンドンパラリンピック日本代表魚津市選手を支援する会が企画。会場のレストラ・BOQUERIA ボケリアには、柴山の弟で同会長の泰輔さん(33)や妻の詠子さん(34)が訪れた。泰輔さんが個人戦と団体戦の試合結果を報告、キキスにいる本人に電話をかけお疲れさま、と声を掛けると、柴山は「皆さんのおかげで楽しくプレーできた」と話し、会場から「よく頑張った」と大きな拍手が起った。

初戦カナダ選手に完勝



個人(B C 1) 1回戦でカナダ選手を破りガッツポーズで喜ぶ柴山友里子(共同)

主な戦績 (世界ランキング16位)

- 2012年1月 ジャパンカップB C 1の部 1位
- 2011年8月 CPISRA Boccia World Cup
団体準優勝/個人13位
- 2011年8月 第13回日本ボッチャ選手権
B C 1の部 1位
- 2010年7月 第12回 日本ボッチャ選手権
B Cクラス優勝 (冬・夏連覇)

【ボッチャ競技】砲丸大の革製ボールを投げて的球までの距離を競う障害者スポーツで、カーリングにも似たターゲットボール競技。動かしにくい指先でボールをつかみ、手首を支点に球を放る。

地域社会賞

特定非営利活動法人 黒部まちづくり協議会 くろワン(新幹線)プロジェクト

新幹線市民ワークショップは、北陸新幹線開業を目途に市民ワークショップ会議の開催、講演会や視察の実施を進め、さらにタウンミーティングを重ね、黒部まちづくり協議会としての研究成果を黒部市に提言しました。その後、この提言の一つである「交通ネットワーク」に関して具体的に活動を進めようと、新たにワンコインプロジェクトとして、平成18年に出発しました。

活動は、第1回を平成19年実施してから、平成24年まで6年、春編と秋編合わせて12回を数えます。現在、その名称を「くろワン」(黒部ワンコインの略)プロジェクトと表記しています。

ワンコインプロジェクトの目的は、新幹線黒部駅(仮称)開業に向けて公共交通利用促進と市民のマイレール意識の高揚を目指しています。これを具体化するために、まち歩きイベントの実施、地铁と地域が協働して行うペイントラッピングなどを展開してきました。

今後、電車利用を促進しながら、黒部の良さや魅力の再発見や物語性のあるまち歩きコースの開発に取り組むとともに、地域の活性化を目指して新幹線黒部駅(仮称)開業イベントの企画と実行を進めていこう、と考えています。



開催日	開催時間	開催場所	対象年齢	料金
10/14	10:00~12:00	黒部市立中央公民館	小学生以上	大人500円、小人250円
10/16	10:00~12:00	黒部市立中央公民館	小学生以上	大人500円、小人250円
10/18	10:00~12:00	黒部市立中央公民館	小学生以上	大人500円、小人250円
10/20	10:00~12:00	黒部市立中央公民館	小学生以上	大人500円、小人250円
10/22	10:00~12:00	黒部市立中央公民館	小学生以上	大人500円、小人250円
10/24	10:00~12:00	黒部市立中央公民館	小学生以上	大人500円、小人250円
10/26	10:00~12:00	黒部市立中央公民館	小学生以上	大人500円、小人250円
10/28	10:00~12:00	黒部市立中央公民館	小学生以上	大人500円、小人250円
10/30	10:00~12:00	黒部市立中央公民館	小学生以上	大人500円、小人250円
10/31	10:00~12:00	黒部市立中央公民館	小学生以上	大人500円、小人250円



黒部ワンコイン・フリーきっぷで、乗駅停車の旅

秋のくろワンきっぷ
おかげさまで第12回
500円で日乗り成程

9/15(土)~11/11(日) 土日祝日の20日間
1日乗降自由・富山地方鉄道・黒部市区内
電車と自転車と黒部を楽しみ、乗駅停車の旅。黒部ワンコイン・フリーきっぷは、大人500円、小人250円、乳幼児無料



2012.9.16(Sun.)
平成24年
「乗駅停車の旅」乗客募集

参加者募集
20名以内
TEL. (0768) 68-9687

乗駅停車の旅とは、乗駅停車の乗客が、乗駅停車の乗客として、乗駅停車の旅を楽しむこと。乗駅停車の旅は、乗駅停車の旅を楽しむこと。乗駅停車の旅は、乗駅停車の旅を楽しむこと。

地域社会賞

社会福祉法人 魚津保育会

魚津保育会は、昭和12年、愛国婦人会魚津支部会員の総意により、魚津保育園の前身「魚津託児所」として開設されました。

その後、昭和23年には魚津第二保育園、昭和28年には上口保育園も認可され、昭和53年「社会福祉法人魚津保育会」として歩み出しました。それまでの道のりはたいへん厳しく、質素な環境の中で関係者の方々の努力は多大で並大抵のことではなかったと思います。

時代のニーズに合わせ園児の健康と人間形成を大切に、家庭及び地域とのふれ合いを密に研鑽を重ねてきました。

地域に根ざすことを運営方針とし、地域の行事に参加、老人施設への慰問、小・中・高校生とも交流を深めてきました。お陰様で卒園児は8千名に及びます。

今後も子どもたちの育ちを第一に考え、職員一同心を一つにして未来を担う子ども達の育成に努めて参りたいと思います。



上口保育園



魚津保育園



第二保育園

地域社会賞

愛本姫社まつり 大蛇お光行列保存会

黒部市宇奈月町愛本橋にまつわる伝説を再現した「愛本姫社まつり」は1988年から毎年6月21日、下立地区で行われています。

伝説では、黒部川に住む大蛇に嫁いだお光が出産のために実家へ戻ったものの、ヘビの子を産んだところを親に見られたため、ちまきの作り方を教えて川底に姿を隠してしまったと言われています。

大蛇の化身である若侍に茶屋の娘「お光（みつ）」が嫁入りするストーリーを仮装した地元住民による婚礼行列が地区内を練り歩きます。

平成23年まで祭りの開催に当たっての協賛金集めなどを宇奈月町商工会の下立地区のメンバーが担ってきました。宇奈月商工会が昨年5月解散したため、資金の確保が困難などとして実行委員会による開催を断念しました。

しかし保存会が文化伝承や地域活性化のため、行列の存続が重要と考えた福澤会長をはじめ壮年層を中心に約20人で結成され、平成24年度の開催にこぎつけました。保存会では今後も続けていきたいと意気込んでいます。



奨 励 賞

合同会社 善 商

合同会社 善商は『入善ブランド』を発掘・開発・製造・販売することにより、入善町の活性化及び経済の発展に貢献することを目的として、12名の有志が集まり、平成22年5月に設立されました。

海老味噌仕立ての『入善ブラウンラーメン』や入善産唐辛子を練りこんだ『入善レッドラーメン』を開発し、『入善ブラウンラーメン』は、平成22年度富山県トライアル発注商品に認定され、(財)富山県観光連盟主催「富山のお土産ベストセレクション2011-2012」の農水産加工品部門においては、最高賞の「知事賞」を受賞と、県内外より高い注目と期待を集めています。

この他、みずみずしいもぎたての入善町・朝日町産桃をたっぷり使ったシャーベットタイプの『入善みな穂の桃ジェラート』や、JAみな穂と協力し入善特産の「入善ジャンボ西瓜」の果汁を使用したオリジナル地サイダー『入善ジャンボ西瓜サイダー』を開発・販売するなど、職種が異なる14名(現在)がそれぞれの職種の観点から、アイデアを出し合い、協力することにより、個々の組織で出来る範囲を超えた活動をしています。

地元入善町の農業・商業・工業・水産業並びに 商工会青年部と連携し、元気な人・もの・郷土を全国へと発信をしており、更なる発展が期待されています。



奨 励 賞

富山県立魚津高等学校 放 送 部

魚津高校放送部は、1年生から3年生まで部員33人、富山県内でも伝統ある放送部として知られている。

平成24年8月に開催された第36回全国高等学校総合文化祭の放送部門で、富山県は、最高賞である「文部科学大臣賞」を受賞した。魚津高校放送部から2人が、アナウンス部門で優秀賞（上位8人）を獲得し、富山県勢として、大きく貢献した。

また、NHK杯全国高校放送コンテストアナウンス部門で、優秀賞（3位）を受賞、ラジオドキュメント部門で、優良賞（上位10本）を受賞するなど、好成績を収めた。

平成23年に開催された第35回全国高等学校総合文化祭 朗読部門でも優秀賞（上位10人）受賞、NHK杯全国高校放送コンテスト朗読部門で準優勝（2位）、優秀賞（3位）受賞、平成22年に開催された第34回全国高等学校総合文化祭 アナウンス部門で優秀賞（上位10人）、朗読部門で優秀賞（上位10人）を受賞するなど、ここ数年、輝かしい成績をあげている。

コンテストへの参加以外にも、地元ケーブルテレビNICE TVや、地元コミュニティFMラジオミューで番組コーナーを持ち、高校生の若い感性で、地域に情報発信している。

また、保育園で読み聞かせを行ったり、図書館で発表会を開催するなどの活動も続けている。



青少年育成賞

上村木七夕祭保存会

上村木の七夕祭りは、昨年、100周年を迎えました。大正2年（1913年）、上村木（当時の加積村）の3人の少年が、入善町の屋形船御輿をかつぐ祭りにヒントを得て始めたと言われおり、発祥以来、地元の中学生が中心となって祭りを行ってきました。

毎年、8月6日の宵祭を経て、8月7日の本祭には、太鼓、屋形船を担いだ男たち、家庭で作った七夕飾りを持った人たちが、行列を作って町内を練り歩きます。蓑のような『あじろ』を着て、刀を持った天狗や狐なども、行列について歩きます。この『あじろ』を着た神様と握手すると、願い事が叶うとされており、沿道の人たちが進んで握手を求める姿がみられます。

平成24年、上村木七夕祭保存会（保存会会長 纒坂直人）は、これまでの祭り継承に関する活動が評価され、青少年富山県民会議会長表彰、および、青少年育成魚津市民会議青少年育成優良事業団体表彰を受けています。





第30回 特別賞

前新川地域発展賞選考委員長 長井 真 隆

長井真隆先生は、新川地域発展賞選考委員長として、第16回(昭和58年)から昨年第29回まで14年間の長きに亘り努めていただきました。

2代目選考委員長として、新川地域の発展と文化継承など発展賞制定の趣旨を大切に、新川経済倶楽部会員より推薦された方々を公平・平等に選考していただき、その意義を評されておられました。

長井先生の的確なアドバイスは、選考委員会において常に隔てなく地域を見渡し発展賞にふさわしい人々に光を与えることであります。

当新川経済倶楽部といたしましても、長井先生に選考委員長として継続していただけたと思っておりましたところ、先生より第30回を節目にと辞退の意を申し出され、会員一同困惑いたしました。お陰様にて第3代目選考委員長に、幹事会・理事会から上田洋一様の推挙があり会員一同の承諾を受けて決まりました。上田洋一様には、第30回新川地域発展賞選考会より参加をいただきました。

このように新川地域発展賞の理念を一貫して継続していけますことは、長井先生の情熱による地域発展と、当新川経済倶楽部に多大な貢献を賜りました。ここに会員一同深く感謝を申し上げ、第30回の特別表彰し、その意を表すところであります。

今後、新川地域発展のためにご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

